

田野畑中(鎌田政好校長、生徒73人)が全校で取り組む地域活動の校内組織「仮会社Comaru(コマル)」は、プラス日報の新聞製作ソフト「クミハン」

を使い、広報活動を進化させている。独自の新聞を手書きから変更し、発行回数を増やせるように。田野畑中の地域や人々、自分自身を知り、生き方を考える「田

野畑学」の活動を村内外に発信する。

「小○(コマル)新聞」は、仮会社の商品を並べる道の駅たのはたに設置。これまでは手書きで、新商品や活動のPRなどを行っ

てきた。

初めて道の駅に掲示したクミハン使用の新聞には、株式会社を模した仮会社社名についての解説を掲載。社名の意味は「Community of Making Rudder

(船のかじを作る集団)」の頭文字と、三閉伊一揆の旗印「小○」に「地域をけん引する」との気概を込めたと説明した。

生徒会長で仮会社社長の佐々木来樺さん(3年)と新聞製作担当の熊谷夏希さん(2年)は「製作時間が短縮でき、発行回数を増やせる」「見出しや記事の表現に時間を費やせるようになった。より丁寧に伝えていきたい」と意欲を見せる。

同校は毎週月曜日の朝学習を「新聞を読む日」に設定。休み時間にも生徒は新聞に親しんでいる。鎌田校長は「精力的な新聞作りのほか、世の中への関心を高め、読解力も付いてきている」と喜ぶ。



新聞製作ソフトで「小○新聞」を作り、学校の活動をPRする田野畑中の佐々木来樺さん(右)と熊谷夏希さん



生徒が作った「小○新聞」



道の駅たのはたの「仮会社Comaru」コーナー。たくさんの生徒の手作り商品が並び

先生から



北上・江釣子小
片山 直人教諭(53)
国語の学習で、スマートフォンに関連する県内の問題事例などを記事検索で調べた。今後は震災や戦争、地域の歴史を学ぶ時に活用したい。プラス日報で、物事にはいろんな見方があることを知ってほしい。

児童から



北上・江釣子小6年
高橋 彩さん
タブレットで記事が見られて便利。「クミハン」では習い事のダンスについて、できるようになったことや頑張りたいことを書きたい。自分を紹介する新聞をみんなと見せ合い、同じ趣味の人を見つけたい。

岩手日報社が提供する学校向け新聞活用プログラムです。児童生徒の読解力や情報リテラシーの向上を図るとともに、授業に活用できるコンテンツで先生方をサポートします。

利用できる機能は?

①デジタル版紙面の閲覧②過去約20年分の記事検索③新聞記事を題材にしたワークシート④新聞製作ソフトなど。そのほか震災復興やふるさと学習、進路学習をサポートするコンテンツを提供しています。

どう使われている?

朝学習で新聞を読んだり、行事を振り返る個人新聞作りなど多様に活用されています。2025年度当初時点で、県内の公立小中学校の約40%の学校が利用しています。

ご依頼はこちら!

「+日報」についてより詳しく知りたい方は、岩手日報社プラス日報事務局の専用フォームからお問い合わせください。

